

こんな方法で活用することもできます

本研修会は、通常カリキュラムの1日研修で行う他に、以下のような活用例も可能です。

半日研修

認知症の理解は振り返り程度の内容にとどめることで全体の時間を短縮します。すでに、認知症の理解について学んでいる場合に有効です。対象は、在宅で介護をする家族と接する機会の多い方全てです。

施設等職場内研修などで活用

施設等の職場内研修や、時間が十分に取ることが難しく分割してすべての内容を学ぼうとするパターンです。それぞれの科目が少し短くなるので、演習の発表者を少なくしたり、講義時間を短縮することで実施可能です。

実践研修等での活用例

各都道府県・市ですで行われている認知症介護実践研修の家族支援相当科目の中に本研修の内容を活用する方法です。在宅で介護する家族だけではなく、施設を利用する家族への具体的な対応方法に内容を変更して活用することが可能です。

認知症介護実践者研修

「家族の理解・高齢者との関係の理解」【90分】→「在宅介護の実態と介護家族の理解」を含める

認知症介護実践リーダー研修

「高齢者支援のための家族支援の方策」【180分】→「家族支援と具体的な対応方法」を含める

その他の研修実施例

平成21年度、大分県では「認知症地域支援体制構築等推進事業」の継続事業として「認知症にやさしいまちづくり事業」を展開しており、その中で「認知症の家族支援者養成事業」として、本研修プログラムを実施しています。

昨年度、都道府県を対象としたアンケートでは次のように活用しているという声をいただいています。
この研修を『高齢者虐待防止研修(在宅版)として実施している』
『居宅サービスを提供する事務所職員向け「認知症研修会」において使用している』
『介護保険事業所の職員向け研修の1つの科目として実施している』

平成22年度は66都道府県政令指定都市を対象に

家族支援スキルアップ研修開催支援の案内を行い、

28都道府県市(合計51回)での研修開催を支援し、参加者は合計4,481名でした。

今年度は、全国すべての市町村を含めて「研修開催支援」を行います。

支援内容は、講師の紹介、テキストの配布(1部のみですが、コピーして使用下さい)と紹介、ワークシートのダウンロード、実施についての相談支援です。

※講師は昨年度各県の認知症介護指導者に対し、講師養成研修を行いました。

今後の予定や情報につきましては、

認知症介護情報ネットワーク(<http://www.dcnnet.gr.jp/>)内の「ケアケア家族.com」にて報告していきますのでご覧ください。

問い合わせ・
申し込み先



認知症介護研究・研修仙台センター(矢吹・堀籠)

〒989-3201 宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149-1 TEL・FAX 022-303-7556

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業

在宅における高齢者虐待の未然防止と 家族支援に向けた スキルアップ研修会

平成23年度はこの研修の実施の支援をします。

講師の紹介

テキストの配布
(1部のみ、コピー可)

ワークシートの
ダウンロード

研修実施の
相談支援

研修の目的

在宅で介護する家族へのストレスに
未然に気づき支援するための技術を
身につける研修

研修機会の少ない在宅サービス職員
への1日で実施できる効果的
研修機会を提供する

研修対象

認知症の方を在宅で介護する家族に
関わる機会の多い事業所職員の方

- 例
- デイサービス
 - デイケア
 - 小規模多機能ホーム等の通所サービス
 - 地域包括支援センター
 - 居宅介護支援事業所
 - 介護支援業務に携わる方
 - 家族の会等で相談業務に従事する方等

在宅で介護をする家族を支援するサービスが不足しています。

在宅の介護を支えていくためには、介護をする家族と、在宅支援に関わる事業所のスタッフや相談業務にあたる人との良好な関係を保つことが望まれます。まずは、介護をする家族に認知症を理解してもらうために家族に関わるスタッフが適切に認知症を理解し、適切な助言ができる能力が必要になります。

認知症介護研究・研修仙台センターでは、在宅に最も近い事業所の方により多く認知症と家族支援の専門的知識を持ってもらい、地域で介護をする家族を支援するための仕組み作りを行うことを目的に、この研修を普及することを目指しています。

家族支援に向けた スキルアップ研修開催までの経緯

厚生労働省の調査によると、虐待の被害者である高齢者の約7割が、多くの場合なんらかの居宅サービスを利用していることが明らかになっています。また、精神的サポートを必要としている介護家族は、自ら相談することが難しい場合も多く、本来に必要な人に支援が行き届いていないことが課題でした。

送迎や訪問などで、介護家族と日常的に接する機会の多い専門職の方々は、まさに在宅における虐待防止の重要なキーマンと言えるでしょう。

この研修会を通して、一人でも多くの方に介護家族を支える視点や家族の声に耳を傾けることの重要性を理解していただけたらと考え、開催にいたりしました。

在宅で介護をする家族への支援の必要性

研修のカリキュラム

研修のねらい 未然に家族のストレスを察知し緩和する技術を身につける

1 在宅介護の危機！

- 1 平成21年度に相談・通報のあった件数**23,404件**
- 2 被虐待高齢者の**75%以上**が要介護認定済み
- 3 虐待者の**86%以上**が同居
- 4 虐待の発見者や相談通報者は「介護支援専門員・介護保険事業所職員」が**43.8%**

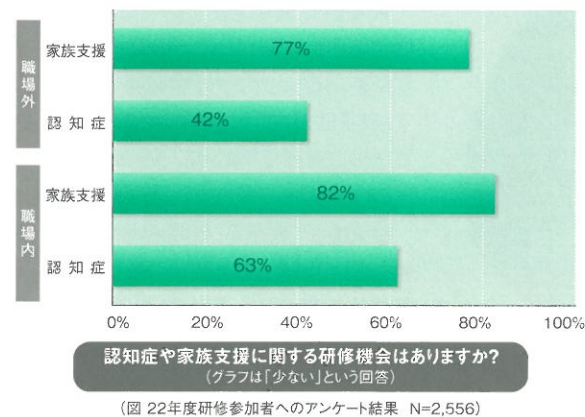
在宅における虐待は増加し、その多くは介護サービスを利用しているにもかかわらず、同居している家族が虐待へと至ってしまっています。そして、こうした虐待を発見し通報した人は、ケアマネジャーや在宅サービス職員が圧倒的に多くなっています。こうした実態から、在宅サービスにかかわるスタッフやケアマネジャーが虐待発生前に危険性を予知し、効果的な介入を行う能力が求められています。



2 家族を支えるための学習機会が不足しています

在宅介護に携わる職員は、研修機会が少ない傾向にあります。特に、小規模事業所においては、人員や雇用形態によって職員を長期間にわたる外部研修に出す機会を取りづらくなっています。

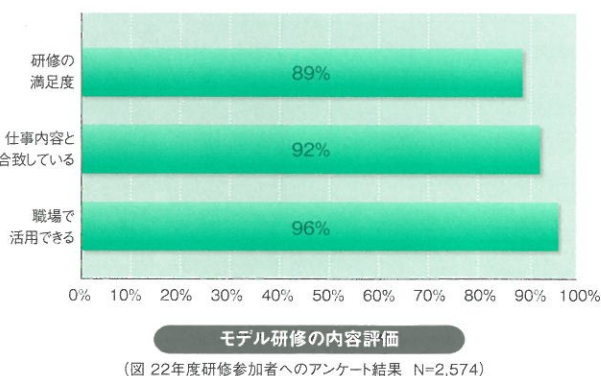
その結果、図のように多くの職員が研修に対して不十分と感じており、特に家族支援の最前線にいるにもかかわらずこのような内容の研修は極端に少ないことが分かります。



3 より多くの介護家族の支援と そのための研修機会が必要です

仙台センターでは、在宅介護を支えていく上で大きな役割をもつ在宅サービスに従事するスタッフを対象として平成20年度実態調査を行いました。そこで明らかになった職員の課題等を反映させるかたちで、平成21年度全国11か所でモデル研修を実施し、22年度には研修開催支援を行い、全国28都道府県市で51回の研修会が開催されました。

今年度はより多くの介護家族の支援を目指し、市町村も含めて案内を行っています。



9:30~10:50 「認知症の人の理解」 映像教材 1. 認知症の人の理解

- 認知症介護の歴史とこれからのケア
- 認知症の人の心理
- 認知症の原因疾患とBPSDの対応と理解
(演習1)「私が認知症になったら…」

11:00~12:20 「在宅介護の実態と介護家族の理解」 映像教材 2. 在宅介護の実態と介護家族の理解

- 在宅介護の実態
- 介護家族のストレスと負担感
(演習2)「家族に認知症を理解できるように説明してみよう」

13:20~15:20 「家族支援と具体的対応方法」 映像教材 3. 家族支援の具体的対応方法

- 送迎時や短い時間で家族に効果的に介入する方法
- ホットメッセージ、ハットメッセージを伝える
(演習4)「60秒コミュニケーション」
(演習5)「家族の悩みにどう対応しますか」

15:30~16:20 「家族支援と社会資源」 映像教材 4. 家族支援と社会資源

- いずれかの映像視聴後情報交換を中心とする
時間がある時は課題解決まで繋げる
(演習6)「地域生活を継続するために必要なサービスと関わり方」

研修に使用する教材 (助成事業のため無料です)

短時間で効果的に研修を行うための映像教材を活用した演習

映像教材は、認知症の方ご本人やご家族に「認知症になってもできること」「うれしかったひと言」「介護のストレスについて」などをお話いただいています。映像教材を用いた演習をたくさん取り入れています。



テキストと 講師用テキストは対応

受講生が使用する研修テキストと講師用テキストは対応しています。また、パワーポイントの講義資料も作成しました。

